

平成21年度第2回山梨県後期高齢者医療懇話会議事録

日 時	平成21年11月24日（木）午後2時
場 所	山梨県自治会館 2階 研修室3
出席者	被保険者を代表する委員 水上秀克（老人クラブ）・篠原泰雄（老人クラブ） 一ノ瀬久則（老人クラブ） 米山富子（老人クラブ） 加賀美千鶴子（老人クラブ） 医療関係団体を代表する委員 島田和哉（医師会）・花形哲夫（歯科医師会） 学識経験者その他の有識者を代表する委員 山本節彦（県福祉保健部）・戸田 知（社会福祉協議会） 医療保険者等を代表する委員 吉田幹哉（健康保険協会）・赤岩三郎（健康保険組合連合会） 矢崎幸雄（国保連合会） 広域連合 嶋口事務局長・小川事務局次長・原業務課長 神澤資格担当リーダー・二宮総務担当リーダー 堀内庶務担当サブリーダー
欠席者	なし
傍聴人	なし
報道関係者	なし
懇話事項	1 「平成22・23年度の保険料率について」事務局より説明 2 その他 その後、各委員より下記のとおり意見がでた。

記

- 歯科に関する健診は、特定検診の中に入っていない。医療費の削減に有効と考えるので、是非ご検討頂きたい。
- 検診の実施、ジェネリック薬品の利用促進で医療費抑制に努める。
- 高齢者は年金だけで生活している実態がある。低所得者に対する補助は様々有るが、やはり限界と感じる。負担を軽減するような方策を考えてほしい。
- 高齢者の医療費は、高齢者の増加、医療水準の上昇で増加するのが当然。良質な医療の確保にある程度の負担は止むを得ないと思う。
- 若年層が、40歳位から健康診断を的確に実施すると、老人の医療費は極端ではないにしろ下がると思う。
- 若い人に健康に気をつけてくださいというアピールを実施することが大切。医療費を使わない努力を皆が心掛けることが必要と思う。
- 高齢者の健康診断は、まだまだ十分ではないので、啓蒙宣伝がもっと必要。

- 老人会は、健康づくり運動に非常に力を入れて事業を実施している。組織的な私どもの会を利用して頂いて、健康づくり運動を展開していくことも検討頂ければ有難い。